と所謂歴史藝術論を否定し、歴史は一個の文化科學である、文化價値一般を學的アプリオリとして經驗の個性文化的認識を求むる科學であると結論してゐる。以上第一部に於て獨立の科學としての歴史學を確立したる後、第二部歴史學の研究方法に說き進み、第二章經驗的實在の確立、第三章解釋に於て、歴史事實の確定方法、史料の種類、史料批判、歴史の補助科學について叙し、史實として確立された經驗的實在を文化價値一般に係らしめて認識して始めて史實の正だしき解釋がなし得られると論じた。第四章把捉に於て、解釋により構成された個々の歴史概念は文化價値一般に係らしめてまとまつた全體に把捉されねばならぬ、かくして眞の一般史が出來る。一般史は便宜上量的、質的に區分されるが、かくして生ずる特殊文化史はそれ自身では歴史學上無意味である、これらの特殊文化史は文化價値一般に係らしめ一般史の部分として見て始めて歴史學的に有意義であると叙べてゐる。かくて著者はこの見解を支那史の時代區劃に適用してゐる、支那史を量的に考察すれば殷までは部落的時代で、これは自然の時代にして歴史的時代でない、周以後東漢末までを國家的時代、それ以後唐末までを過渡時代とし、その後現代までを普遍的文化時代とする。支那史を質的に見れば、殷までが祭卜時代でこれは歴史時代でない。周から東漢末までは政治時代、以後唐末までが過渡時代、それ以後は普遍文化時代であると論じてゐる、この時代區劃については學界に於て議論の多いことであらう。尙著者は卷末の附錄『支那と國家』に於てこの考へ方を敷衍してゐる。最後に第五章叙述に於て歴史叙述が現實の再現に忠實なる點に於て科學であり、同時に個別性を叙述する點に於て藝術的想像を必要とすることを承認してゐる。（京都、中外出版發行、定價金貳圓）〔安藤〕

●京都府史蹟勝地調査會報告（第四册）

連年刊行の同會報告書の第四册で、大正十一年度に於ける調査を收めたものである。本文百四十二頁、圖版四十五枚、體裁すべて前册に異なる所なく、魚澄、梅原兩委員の一市十三郡に亙る三十餘の各種の史蹟の報告が載せられてあるが、今回は印行の期に際し魚澄學士重患

に罹つた爲、同氏執筆の中世以後の記述が少く、梅原委員の上代關係の遺跡が大部分を占むるの結果になつたのが別に京都大學の岩橋小彌太氏執筆に係る乙訓郡眞經寺と北桑田郡日吉神社の調査の二編を收錄したので、その闕が幾分補はれてある。

今ま報告の主なるものを數へると、卷頭の愛宕郡花脊の經塚は一昨年初夏の候偶然發見せられた仁平三年の銘ある經筒や厨子等を埋葬した重要な遺跡の紹介であり、相樂郡錢司の遺跡は我が鑄錢史上顯著な同地の遺跡に關する、現狀と遺物との精査を錄したもの。古墳の調査には唐鏡を發見した特殊の構造の向日町長野の墳墓、前方後圓墳の前方部に陪葬の竪穴式石室の調査なる「寺戸の大塚古墳」をはじめ、埴輪土偶を發見した何鹿郡東八田と綴喜郡井手村の兩古墳、石劍片の出た芦原の一古墳等があるし、寺址には悲仁宮を施入して出來た瓶原の國分寺址と綴喜郡の井手寺址の二つの著しいものが載つてゐる。古寺の調査では上述岩橋氏執筆の眞經寺の精緻な記載の外平安朝の優秀な佛像を安置した何鹿郡の佛南寺、縣佛、鰐口、繪馬、古記錄其の他各種の什寶の多い船井郡大福光寺、大通禪師の畫像を收藏する南桑田郡瑞巖寺古文書の多い天田郡觀音寺等が收められてある。鮮明な圖版と併せ見るにすべての遺跡がよく分明する。古い文化の中心である山城の遺跡がこの如くして漸次記錄の上に保存されて行くのは蓋し學界の欣びである。本書もと非賣品であるが本册は百部を限り京都柳馬場三條下ル似玉堂が實費五圓で頒布の許しを得たこの事であるから希望者は同所に申込まれたい(京都府發行)

◉東京府史蹟勝地調査報告書 第一册

東京府から新に公刊せられたもので、稻村旦元、後藤守一兩氏の執筆に係る武藏國分寺址の調査を載せた、四六倍版、本文五十八頁、圖版六十枚の大册で、同寺址に關する各方面の調査研究の網羅を期してある。

武藏の國分寺は北多摩郡に今もなほ其の寺名をとゞめて、遺址が割合によく存し、發見の古瓦に銘文が現はしたものが多いの故を以て古くから好事家の間に傳稱せられてゐる。本書は先づ國分寺創建の歷史から筆を起して

同寺の沿革を細叙し、次に遺址に就いては其の現狀と礎石の配列をば精密な實測圖に依つて記述すると共に、堂塔の配置や建物の大さの復原をも試み、後半に從來發見の古瓦を集大成した圖版を載せ、後藤君の形式の分類と銘瓦の解說とが加へられてある。是等の記述はみな詳密で、豐富な圖版と併せ見るに於いて同寺の規模を髣髴し得るに近く、近頃續々創刊せらるゝ各府縣の史蹟調査報告中でまさに推賞に値する一と云ひ得やう。たゞ讀過の際の蜀望の感は圖版の組合せが稍蕪なことゝ、それに一々の解說が印刷してない爲、本寺の如き多くの礎石や古瓦のある場合、煩瑣な對照の後でなければこの圖がごの遺跡又は古瓦を示してゐるのやら究め難く、特に本冊の如き本文中圖版との對照の部分に比較的誤植の多いの故を以て其の感更に深い。是等は次冊以下に考慮を加へられて完美なものとならんことを期待する。（東京府發行、非賣品）〔以上梅原〕

彙報

●學士院受賞者

帝國學士院第一部に於て本年度の恩賜賞の授與者左の如し。

一近世日本國民史　德富猪一郎
一本朝文粹譯註　柿村重松

●史學研究會

例會　丁抹人 Fritz Holms 氏の寄贈により今回新たに文學部陳列館に到著したる原大模型の大秦景教流行中國碑が同館正面入口の向つて右側に建立せられたるを機とし六月二十三日午後一時半より文學部第六教室にて本會例會を兼ね、右建立記念講演會を開き、景教碑關係の多數史料をも展觀に供せり。當日來會者百五十名に餘り、例になく會場に溢るゝが如き盛況を呈せり。午後六時散會す。この日の講演要領左の如し。

一、祖先崇拜と我國の封建制度